

薬学
研究科



豊岡病院組合 勤務

辻井 聡容 さん

2017年度 博士課程 修了 (臨床薬剤学分野)

地方(遠方)で勤務しながら博士号を取得するには

大学院への進学は、地域を牽引するようリーダー的な薬剤師になるには?と考えることがきっかけでした。博士号を取得しているということは論理的に考える訓練ができている一つの証拠です。服薬指導する際にも必要となってくる論理的説明力も身につきます。医師や看護師からも一層信頼され一目置かれるようになります。本学は社会人が学びやすい履修環境が特徴の一つです。大学院の授業は夜間・土日も開講されており、私のように片道3時間かかる遠方からも通学・受講が可能でした。担当教員の丁寧な指導と本学の協力により、遠方で勤務しながら博士号を取得することができました。

現在の仕事

少子高齢化が顕著な地方の病院薬剤師です。専門は癌化学療法・緩和薬物療法ですが、認知症や高齢者なども多く扱っています。所属学会の委員会活動やガイドライン作成などにも携わっています。

竹内 直博 さん

2017年度 博士課程 修了 (臨床ゲノム薬理・分子薬物動態学分野)

丁寧な指導体制と充実した設備環境が魅力

大学院進学を決めたのは、博士号を取得する過程で本質を捉える力を向上させ、臨床開発の専門性を高めたいと思ったからです。研究は抗うつ薬の治療反応性とDNAメチル化との関係をテーマにし、研究の進め方など担当教員の先生から丁寧に指導していただきました。この指導体制は大学の魅力のひとつだと思います。また、文献調査やデータの解析等をするために研究室のほかに院生専用の部屋を利用することができ、研究に集中する環境も整っています。大学院で学んだことを活かし、がん領域においても個別化医療の実現に向けた研究開発を進めていきたいと考えています。

現在の仕事

製薬会社の開発部門でがん領域の臨床開発を担当しています。効果の高い新薬の開発が待ち望まれているがん領域のなかでも、近年注目が高まっているがん免疫に関わる薬の開発に携わっています。

中尾 周平 さん

2016年度 博士課程 修了 (創薬化学分野)

大学院で培った研究力が現在の業務にも直結

大学院では、薬の種となる化合物を創り出す研究を行っていました。対象としていた疾患は前立腺がんと疼痛で、いずれの研究も基になった化合物より薬効などが向上し、医薬品に近づいた化合物を得ることに成功しました。他の研究室の活動にも触れる機会があり、専門分野以外の知見も幅広く得ることができたと感じています。大学院の研究をとおして身につけたスキルは現在の研究にも直結しており、今後も新たな医薬品の創出に関りたいと考えています。

現在の仕事

2020年度より、母校の教員として着任致しました。研究分野は少し変わり医薬品の副作用メカニズムを研究しています。大学院では幅広い知識が得られ、今の研究にも役立っています。学生にも研究者を目指してもらえよう、後進育成も行っています。

志方 敏幸 さん

2016年度 博士課程 修了 (分子循環器病治療学分野)

出会いは学びの機会

大学院での4年間は、新しい出会いとともに、臨床現場で活かせるさまざまなことを学ぶ機会がたくさんありました。恵まれた環境のなかで、社会人として大学院生活を送ることができたことに指導教員である辻野健教授をはじめ、まわりの皆様のサポートに深く感謝しております。現在、当院の薬剤室には、本学の大学院を卒業する予定の薬剤師も在籍しており、Clinical Question を日々考えられる職場環境を構築することで、質の高い薬物療法を提供できる薬剤室を目指しています。

現在の仕事

兵庫医科大学ささやま医療センター薬剤室の室長として、大学院で培った知識や経験を活かした業務を行っています。学位を取得することで新しい人との繋がり、やりがいのある仕事が着々と増えています。